

同じ目標に向かっていているときは、あまり性別は関係ないと感じます。

共和産業株式会社

■〒370-0015 群馬県高崎市島野町890番地
■TEL.027-352-1631(代)
■http://www.kyowa-industrial.co.jp/

●取締役社長 鈴木 宏子さん



Q 育児休業や短時間勤務など女性のキャリアアップをサポートする制度はありますか？

A 産休・育休の制度はありますが、育休の利用者はまだいないのが現状です。弊社はもともと女性社員が少ないのですが、産休は今までに5名が利用しています。現在も、経理課の課長代理(係長)が産休中です。2人目が生まれた時に退職するケースが多く、保育園が遠い、預ける人が無いとかが退職理由のようです。またキャリアアップ研修では、男性、女性に関わらず同じような研修を受講し、昇格をするというシステムになっています。現在産休中の経理課課長代理がこの研修等を受講して、管理職になっています。

Q 男性が多い製造業で取締役社長として働いていらっしゃる鈴木さんですが、周囲の反応はどうですか？

A 製造業の会合では200人から300人の企業のトップの中で私だけが女性ということは結構ありますね。しかし、仕事をするうえでは、とにかく実績を出して業績を上げ、目的を達成するというレベルになると、お互いの性別は気にしなくなります。要するに、同じ目標に向かっていているときは、あまり性別は関係ないのようになって感じ

はします。弊社は製造業ですが、入社した時は経理の仕事をしました。ちょうど、1丁が導入された頃で自分からシステム構築をしましたので、仕事がいそいそだったと感じています。また、私が課長に昇任する頃に女性課長が社内一人いましたね。また、父から社長というポジションに就くチャンスをもたらえたことが周囲からの最大のサポートですね。社長就任後は、社員の生活と自己実現、「充実した人生が送れた」と思ってもらえるように、自分も思えるように働いています。

Q 大学時代など、若いころの鈴木さんは仕事をすることに関してどのように考えていらっしゃいましたか？

A 経営者の家庭で育ったので、仕事や会社に対する思い入れは子どもときから当たり前のようでありました。また、働くのが当然とも思っていました。でも、家業を継ぐ気は全くなく、両親にお願いして米国コロラド州の大学に留学しました。アメリカ史を勉強していたのですが、就職を考えて経営学を専攻するようになりました。卒業後も帰国する気はなく、全米大手の会計事務所働いていました。80年代で日本企業が海外進出する時期でしたので、土曜日にも働いていました。アメリカ人は土曜日には出社しないので

すが、女性初の重役さんになられた方のオフィスは土曜日でも明かりがついていたことを覚えています。その後、両親への恩返しを考え始め、帰国を決心しました。その後は、必死に仕事をしているうちに、気が付いたら、自分が社内では指揮を取っていました。

学生の声

男性社会のイメージがある製造業ですが、共和産業さんには熱心に会社のことを考えている素敵な女性社長さんがいらっしゃいました。会社や社員のことを想う鈴木さんのインタビューを通して、今まで私は女性であるから当たり前に産休や短時間勤務等のサポートを受けられると思っていたことに気づきました。そうではなく、事前に一生懸命に働き、会社に貢献したためサポートを受けられるという認識を持つことが大切だと思いました。

